



海田西小学校
通級指導教室だより No. 6
令和4年5月6日(金)

怒りの原因は、何？

イライラやキレるもとである「怒り」は、コントロールが難しい感情の一つとされています。

大人でもうまく対処できないことがあります。ましてや子ども達は、対処法を身に付ける練習をしている真っ最中です。

特に、発達障害がある場合、その特性から、他の子にとっては何でもない場面でもイライラしたり、パニック状態になったりすることがあります。

ですが、それは、SOSの表れでもあります。

周囲の理解が得られず、適切な支援が受けられない環境の中では、激しさが増していきます。

さらには、「怒って暴れば、みんなが言うことを聞く。」という誤学習につながってしまうこともあります。

そうさせない為にも、まずは、身近にいる私たち大人が、ADHD（注意欠如・多動症）・ASD（自閉スペクトラム症）・SLD（限局性学習症）について、それぞれの特性と怒りの関係について理解しておきたいと思います。

(参考資料 発達障害の子が「キレる・怒る」を自分でコントロールできるようになる本 ～有光興記～)

ADHD（注意欠如・多動症）

就学前までは、トラブルは少なく、むしろ活発で人気者であることも多いです。小学校に入ると環境が大きく変わり、衝動性や注意欠如が目立ってきます。衝動性を生かして、遊びをリードしたり、ある特定の事が得意だったりして、一緒に過ごして楽しい反面、空気が読めないことで、うまくいかない場面も出てきます。叱られると、「否定された。」と怒りが爆発し、丁寧なフォローがないと、自尊感情も低下し、反社会的な行動をとることがあります。

「叱られる。」「我慢しないと。」と、分かっているけど、衝動が抑えられない。同じことを何度も繰り返してしまう。



忘れ物が多い。借りたこと自体忘れることも。

ASD（自閉スペクトラム症）

相手の気持ちを読み取ることが苦手で、力加減や距離感がうまくはかれないため、他者とのやりとりがうまくいかずにトラブルになることが多いです。

こだわりが強く、自分のペースを乱されるのが嫌なので、一人で遊んでいる時は良いのですが、友達が加わると、払いのけるような拒絶のしぐさをしたり、パニック（怒鳴る・叩く・泣き叫ぶ等）になったりすることがあります。

友達が嫌がっていても、表情理解が難しく、何がいけなかったのか分からず謝ることができません。「自分の非を認めず、人のせいにする。」と、周囲にとられてしまうこともあります。

人からどう見られるのか想像が難しく、身だしなみが乱れやすい。



相手が痛がっていても、本人は遊びのつもり。

自分は悪くないのに、怒られてばかり！と、被害者意識と怒りが募っていく。

SLD（限局性学習症）

主に読み書き計算に困難を抱えています。できないのには理由があって、目で見ている物が歪んで頭に入るようなパターン、覚えているけれど運動の記憶が手足に伝達する時に歪んでしまうようなパターンなど人によって違います。

例えば、漢字が書けないのは、「書字表出障害」かもしれません。

それを知らずに、やり直しを強要されたり、何度も書かされたりすると、どんどん意欲をなくし、鉛筆を投げたり、宿題をしなくなったりします。

大きな声を出したり、不登校になったりする子もいます。

これは、我慢の限界からくる怒りの表れです。

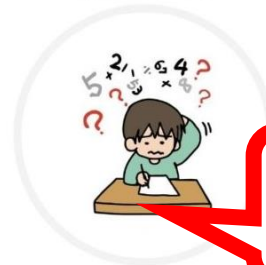
字が歪んで読めない。

ディスレクシア
(読字障害)



頑張っても書けない！

ディスカリキュリア
(算数障害)



計算ができない。

ディスグラフィア
(書字表出障害)

できないことを強要して、子どもを追い込まないようにしましょう。



できることをしっかり褒め、自信をつけて、伸ばしていきましょう。